

【パネル討論1】

「地域再生におけるソーシャル・キャピタルの役割」

山 内 直 人



皆さま、こんにちは。ご紹介いただきました大阪大学の山内です。午後の部で、みんなお昼に行ってしまう戻ってこないのではないかと心配していたのですが、たくさんの方に戻ってきていただきましてありがとうございます。

ございます。

わたしは、地域の問題、地域の発展や再生を考えるときに、非常に重要な要素だと言われているソーシャル・キャピタルというものについてお話をしたいと思います。

ソーシャル・キャピタルとは何か。日本語ではよく社会関係資本とかというように言われますが、人と人とのつながりの有り様を資産に見立てた概念のことです。このスライドにありますように、3つくらいの要素から成り立っているとよく言われます。

1つは信頼、人と人が信頼しあっているかどうかです。もう1つはネットワーク、人脈、どのような人とかかわり合っているかです。3番目が、助け合いの慣行、互酬規範が成立しているかどうかです。そのような3つの要素を備えたような社会というのは、人々の協力関係を促進して社会を円滑に機能させるような潤滑油というか、触媒のような役割を果たすのではないかと考えられています。これは目に見えないものなので、例えば同

じくらしいの人口規模の地域でも、あるところは発展して、あるところは発展しないということがある。例えば円高のような危機が訪れたときにあるところは乗り切れるけれども、別のところは乗り切れない。表面上は労働者の数や産業構造というのは変わらないように見えるのだけれども、なぜか違いがでる。それを突き詰めていくと、このようなソーシャル・キャピタルのようなものが背後にあるのではないかと考えられています。これは地域に限らず企業についても言えるし、あるいは国と国との関係についても言えるかもしれないのですが、きょうは地域やコミュニティの例を使ってお話をしたいと思います。(資料1)

簡単にご説明したいと思います。1つは信頼です。信頼というのは、自分と特定の関係にない、まったくの第三者との間にどのような信頼関係が成立するか、あるいは他人にだまされないという

人と人のつながりは地域の資産

つながりの「質」を表わすソーシャル・キャピタル

「ネットワーク(人脈)」「互酬規範(助け合い)」「信頼」といった社会組織の特徴で、人々の協力関係を促進し、社会を円滑に機能させるもの。



資料1

確信があるかどうかというようなことです。信頼というの目に見えない概念なので、信頼を数値で表すために、あなたは一般的に他人を信頼することができますか、それとも用心するに越したことはないと思いますかというような質問に対する、YESと答える人の割合のようなもので見る人が多いと思います。いろいろな社会調査で、英語でも日本語でも、このような同じような質問を發して、どのくらいの人がYESと答えるかというので、国別の比較をしたり、地域別の比較をします。

わたしはきのうまで1週間インドで過ごしていました。インドに行くと、近寄って来る人は自分を騙そうとしているというふうに思ったほうがいいというように行く前に言われていました。タージマハールなどの観光地に行くと、写真を撮ってあげましょーと言って近寄って来る人がいるのですが、多くはお金目当てなのです。日本ではまったくありえないような事がインドではありえるので、信頼のある社会かどうかというのは、かなり地域別に違うのだということを実感して帰ってまいりました。(資料2)

信頼がないと、どういうことが起こるか。安心して経済取引を始めようというときも始められないのです。例えば自分は、アイデアはあるけれども資金がないとします。その資金を持っている人との間で交渉して、お金を出してくれるのであれば、自分のノウハウを提供する、そのような取引をしたいと思ったとします。例えばベンチャーをやる場合にでも、ビジネスモデルを持っている人と資金を提供してくれる人の間の信頼がなく、自分がアイデアをしゃべった途端にとられてしまうかもしれないような社会では、取引が成立しない。あるいは、例え紛争になったとしても、信頼関係があると早期に解決できるというようなメリットがあるというように思います。ですから信頼というのは非常に大事で、コミュニティにしても企業にしても、それがあると経済学でいうところの取引コストを安くあげることができるということだ

SCの要素としての「信頼」

- 一般的信頼: 自分と特定の関係にない他者一般に対する信頼、他人に騙されないという確信
- 測定法: 「あなたは一般的に他人を信頼することができますか? それとも用心するに越したことはないと思いますか」という質問に対する回答傾向をみる

資料2

信頼の重要性

- 信頼がないと・・・中古車市場の問題
 - 買い手は、売り手しか知らない事故車を売りつけられるかもしれない
- 信頼があると・・・経済取引を進めやすい
 - 取引相手に騙されないという安心があれば、厳密な契約なしでも取引を始められる
- 紛争を解決しやすい
 - 紛争になっても信頼があると早期解決できる

資料3

と思います。(資料3)

2番目は、互酬性の規範です。互酬というのは非常に難しい学術用語ですけども、相互扶助の関係というのか、おたがいがさま、あるいはギヴアンドテイクの関係が成立しているということです。ですから、これも信頼の話とまったく別次元の話ではなくて、信頼があるからこそ、そのような相互扶助が成り立つわけです。伝統的な農村社会などでは、冠婚葬祭の時に手伝いに行くとか、田植えや収穫のときの助け合い、あるいはゆいや講、無尽などというような相互扶助の仕組みが昔は普通にあったわけですけども、今はだんだん伝統的な習慣というのは無くなっています。しかし、互酬関係が成立しているかどうかというのは、

ソーシャル・キャピタルの1つの要素としては重要だと考えられています。(資料4)

それからネットワークです。人と人とのつながり、絆、人脈ということです。これも単に友達の数が多いとかではなくて、異なるグループの間の橋渡しの役割を果たしているかというようなことが割と重要なのではないかとされています。例えば、行政と産業をつなぐ人、それから文系と理系の間をつなぐ人、あるいは住民と自治体の間を取り持つ人。そのような橋渡しをできるキーパーソンが重要な役割を果たすと考えられています。以上、3つのようなことがソーシャル・キャピタルを考える時に重要な要素だというのは頭に入れ

互酬性の規範

- 要するに、「相互扶助」、「お互い様」、「ギヴアンドテイク」ということ
- 伝統的農村社会では普通であった、冠婚葬祭や田植え・収穫の時の助け合い
- ゆい、講、無尽・・・などの相互扶助の仕組み
- 互酬が成立するためには、コミュニティのなかの信頼関係が前提

資料4

ネットワーク

- 人と人とのつながり、きずな、人脈
- スモールワールド理論
- 全くの他人であっても、両者は、数人を媒介すればつながっている？
- 行政と産業、文系と理系など異なるグループにネットワークを持ち、橋渡しできるキーパーソンが重要な役割

資料5

ておいていただければと思います。(資料5)

ソーシャル・キャピタルが豊かなコミュニティというのは、したがって住民同士の交流や付き合いが非常に濃密である。あるいは相互扶助、助け合いの習慣が定着している。住民間の信頼関係が構築されている。交流あるいは互酬、信頼という3つの要素というのが独立しているのではなくて、お互いに高めあうような形になっているということです。多くの住民が地域の問題を自分たち自身で解決して、より良い地域にしようというように自発的に考えて日々努力しているようなコミュニティであると考えていただければと思います。

もしそういうのがなければ、その地域が住みにくいと思えば、みんな逃げ出してしまうわけです。そうではなくて何か問題が起こったときにも、自分たちで解決策を見出して、あるいは場合によっては行政や産業、あるいは別の地域から助っ人を呼んできて解決しようというように努力をする。そのような地域が、ソーシャル・キャピタルの豊かな地域といえると考えられます。(資料6)

ソーシャル・キャピタルの効果にはいろいろなものがあります。一番分かりやすい例として、犯罪の例がよく使われます。近所付き合いが非常に濃密だと、よそ者が入ってきても気付きやすい。あるいはよく犯罪社会学で「割窓理論」というよ

SCが豊かなコミュニティとは

- 住民同士の交流・つきあいが濃密
- 相互扶助、助け合いの習慣(互酬)が定着
- 住民間の信頼関係の構築
- 交流・互酬・信頼の好循環で相互に高め合う
- 多くの住民が、地域の問題を自分たちで解決してよりよい地域にしようと自発的に考えて、日々努力している

資料6

うに言われますが、落書きや割れた窓を放置しているような地域は犯罪の温床になりやすい。ソーシャル・キャピタルが豊かだとそのようなものを未然に防ぐようなことを住民自らやろうとするし、普段からの付き合いがあれば、誰がよそ者かというのもすぐに分かる。それがひいては行政コストを引き下げることにもつながるということです。(資料7)

それから、経済や産業に関しては先ほど申し上げました。実際のデータでもソーシャル・キャピタルの高い地域は新規開業率が高かったり、失業率が低かったりするということが示されています。ソーシャル・キャピタルが豊かな社会では健康度が高い、長寿である、あるいはその地域の幸福度が高いというようなことが言われていまして、この辺りはいわゆる公衆衛生の分野では最近非常に実証的な研究が進んでいる分野であります。(資料8, 9)

ここで、事例をご紹介したいと思います。今回の東日本の震災の被災地の南端のほう、福島県のいわき市というのがあります。ここは『フラガール』という映画で非常に有名になった所です。昔は炭鉱町で、炭鉱がいずれ行き詰まるということで、炭鉱をやっておられた中村さんという方が、エネルギー革命が進み炭鉱が斜陽化したあと、どのようにして地域再生をするかということを中心にかなり早い時期から考えていた。それで、彼は、炭鉱からわき出す非常に豊かなお湯を使って温泉リゾートを作れないかということを考え出したのだそうです。

わたしはこの間も行ってきたのですが、震災のあとでも非常ににぎわっているのです。地元でフラダンサーを養成する、それから地元の元からあった旅館など、そのようなところとも共存していくというようなスタンスでもう何十年もやっているわけです。企業としても経営陣と従業員との間の信頼関係が非常に良い。もともと鉱山会社というのはそういうところだったと思うのです。本

SCの効果:安全・安心

- SCが豊かなところは、犯罪率が低い
- 近所づきあいが濃密なら、よそ者が入ってきても気付きやすい
- 「割窓理論」:落書き、割れ窓など放置する地域は、犯罪の温床になりやすい
- 豊かなSCは、防災・災害復興にも効果を発揮
- 防災訓練、近隣による救助、災害の伝承など

資料7

SCの効果:経済・起業・雇用

- SCが豊かな社会では、信頼関係を築きやすく、取引コストを抑えられる
- 起業がしやすく、成功すれば経済成長を促し、失業率も低く抑えられる。
- データでも、SCの高い地域は、新規開業率が高く、失業率が低い

資料8

SCの効果:健康・医療・福祉

- SCが豊かな社会では健康度が高い
- 健康であることは幸福度を高める
- 人付き合いが活発、濃密であれば、健康にプラス
- 健康増進活動を住民同士で誘いあって継続する
- データでも、SCが豊かだと平均余命が長く、出生率が高い

資料9

社も東京ではなくていわき市に置いて、今で言うところの地域CSRのさががけだというように思います。(資料10～14)

東日本大震災の時にメインのプールの底に穴が空いて、営業を何カ月間か停止しなければいけませんでしたが。半年後の10月に部分開業して、今年の2月には前面再開にこぎつけています。わたしは9月に1度行ったのですけれども、大変多くのお客さんが入っていて、そのホテルに泊まろうと思ってサイトを見たら、もうかなり先まで予約で埋まっているというような状況でした。風評被害もたくさんあったと思うのですけれども、それを乗り越えて頑張っている事例です。ですから探鉱が閉山になったこと、それから今回の震災という

SCとITネットワーク

- 情報通信技術、インターネットの発達は、SCを豊かにする
- 地域を超えて、オンライン上のコミュニティが形成される
- ただし、人間的付き合いなしのオンライン・ネットワークだけではSCを築けない
- ネットに夢中になると、オフラインの付き合いがおろそかになる面も
- ネット上での中傷など、ダークサイドも

資料10

事例1:いわきの地域再生

- 南東北・福島県いわき市
- 1966年市町村合併で誕生
- 現在人口33万人
- 炭鉱町から温泉リゾートへ
- 映画「フラガール」の世界

資料11

成功のカギ:キーパーソン

- 常磐炭礦(後に常磐興産)株式会社社長・中村豊(1902-1987)のリーダーシップ
- 1万5千の社員と7万人の地域コミュニティ
- エネルギー転換と炭鉱の斜陽
- 炭鉱閉山後の地域再生のアイデア
- 今風に言うと「社会起業家」
- 1966年、常磐ハワイアンセンターを創業

資料12

成功のカギ:ユニークなアイデア

- 温泉の有効利用(石炭1トンに40トンの温泉)
- 地元でフラダンサーを養成
- 大衆リゾートに徹する
ダサイ、アカ抜けないが、安心して遊べる
- 一貫性がないのがよい?
cf. TDL、USJ、ハウステンボス

資料13

成功のカギ:信頼と共生

- 経営陣と従業員の信頼関係
- 炭鉱労働者と家族のために雇用を創出
- フラダンサーも地元で養成
- 地元旅館との共存共栄
- 食材や土産品の地元調達
- 本社を東京からいわき市に移転
- 地元密着「CSR」のさががけ

資料14

2回の危機を乗り越えることができた。それは先ほど言ったようなソーシャル・キャピタルの要素が整っていたからではないかと考えています。(資料15)

もう1つ、富良野の例をご紹介したいと思います。ここは倉本聰氏が長い期間住んでいて、彼の力で地元の若い人を役者に育てるような、あるいは東京から若い役者を呼んできて公演をするというようなことをずっとやってきています。「ふらの演劇工房」という日本で最初のNPO法人を設立し、芝居小屋を建てました。座席数は300ということなので、この会場と多分同じくらいの感じの小規模な芝居小屋を建てたのです。大変雪深い所で、札幌からも非常に遠いのですが、ある程度採算ラインに乗るような稼働率を維持しているということで、これは人的な幸運に恵まれたということもあるのですけれども、やはりソーシャル・キャピタルが豊かな地域だからこそできたのではないかと考えています。(資料16～18)

それからもう1つは震災の事例で、これはよくNHKなんかでも取り上げられるのでご存知かと思うのですが、「釜石の奇跡」です。これは釜石の湾岸にある中学校の生徒が津波のあと、機転を利かせて隣接する小学校の児童を引率して高台まで避難し、被害を最小限に食い止めたという事例です。数年前から群馬大学の先生に指導を仰いで

東日本大震災で危機の再来

- 3.11で営業中止
- 地震、津波、原発事故、風評被害の4重苦
- 福島第二原発から直線20キロ
- フラダンサーは、全国キャラバンへ
- 2011年10月部分開業、2012年2月全面再開
- あわせて新ホテルも開業
- 常磐興産社長・斎藤一彦のリーダーシップ

資料15

事例2: 富良野市の地域振興とSC

- 富良野市: 人口2万余の小都市
- 札幌から2時間以上、雪国のハンディ
- 高い観光集客力
- ウインタースポーツのメッカ
- オーストラリア等からの長期滞在観光客

資料16

成功のカギ: やはりキーパーソン

- 脚本家・演出家・倉本聰の求心力、人脈
- 1981年、TVドラマ「北の国から」放映開始
- 東京から移り住む
- 若手俳優・脚本家養成のため「富良野塾」創設
- 富良野自然塾創設: プリンスゴルフ場跡に植林

資料17

富良野演劇工場について

- 2000年11月こけら落とし
- 運営団体ふらの演劇工房はNPO法人認証第1号
- 座席数300、出演者と観客の一体感
- 非常に凝った舞台演出が可能
- 富良野の誇り: 多くの地元ボランティアが参加
- 東京の役者にとってもあこがれ(倉本の影響力)
- 採算ライン以上の稼働率を維持

資料18

防災教育に取り組んでいて、日ごろから大津波を想定したような避難訓練をしていたことの成果です。釜石の奇跡とは言われているが、それは実際は奇跡ではなくて、ソーシャル・キャピタルの豊かな土地柄で、日頃のしっかりした訓練の成果が表れたということです。(資料19)

ソーシャル・キャピタルはそういう意味で、防災や震災復興にも非常に重要な役割を果たしています。阪神淡路大震災のときにも、あのときは建物が倒壊して被害を受けたケースが多かったのですけれども、助かった人の多くは隣人に助け出されたというように言われています。そういう時は、消防などが来るのを待っている間にも人が亡くなるわけですから、コミュニティの中の共助というのが非常に重要だということが言えると思います。(資料20)

それから、仮設住宅の建て方についても、住宅のレイアウトの仕方、たとえばコミュニティスペースを作るかどうかというのが、そのあとのクオリティオブライフに非常に大きな影響を与えているということが、阪神のときの経験で分かってきました。例えば何十軒かに1軒、住民が集まれるスペースを作るとか、あるいは玄関を向き合わせに建てるとか、そういうソーシャル・キャピタルを育むような工夫が重要だということが分かってきて、東日本大震災でもその経験を生かして仮設住宅を建設したところがあります。仮設住宅に移るときもその地域のソーシャル・キャピタルをできるだけ維持するような形で移るということが非常に大事なのだと言われています。(資料21,22)

まとめると、まちづくりあるいは地域再生に必要なものというのは、都市の規模や人口集積などではなくて、やはり人が重要なのではないかと考えています。キーパーソンがリーダーシップをとって、住民の間をまとめて、あるいは行政との間の橋渡しをしてということがまちづくりに大事である。お金はあるに越したことはないのですけ

事例3:釜石の奇跡

- 釜石東中学校の生徒が、隣接する小学校児童を引率して高台避難、津波の犠牲者なし、市内の他の小中学校でも被害は最小限
- 釜石市教委、2005年から群馬大・片田教授らとともに防災教育に取り組み、市内の小中学校は、日頃から大津波を想定した避難訓練や防災授業を実施
- 「釜石の奇跡」は奇跡にあらず、日頃の訓練の成果

資料19

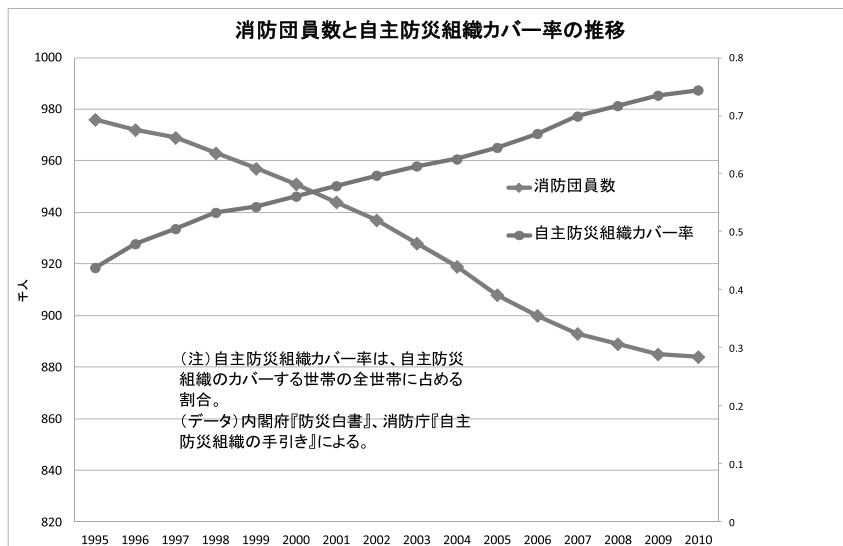
SCは防災・復興にも重要な役割

- 隣近所との日常的な付き合いの重要性
- 阪神大震災、9割は隣人に助け出される
- 信頼関係とネットワークの醸成
- 地縁組織(自治会・町内会など)の役割
- 災害時の消防団、自主防災組織の役割
- 災害復興におけるNPO・ボランティアの役割
- 復興過程でSCを破壊しない配慮が必要

資料20

れども、やはり今までわたしが見てきた例から言うと、お金よりも人が大事で、それは必ずしも地元の人である必要はなくて、外から呼んできた人でもいい。いわきの中村さんにしても富良野の倉本さんにしても、もともとその土地の人ではないわけですから、いなければ外から呼んでくることができるといことだだと思います。(資料23)

地域の問題解決力というのは、地域で何か問題が起こったときにそれを解決する力です。スライドにありますように、危機・問題の発生に気づき、コミュニティでそれを共有して、リーダーシップを発揮する人のもとで住民、企業、行政など異なる主体が協力し、解決のためのアイデアを出して実行した後、さらにその施策を評価し見直すとい



資料21



資料22

う、このPlan, Do, Seeの流れをうまく回していくことができるかどうかということが、コミュニティの問題解決にとって非常に重要だと言えます。（資料24,25）

言いたかったことを要約すると、まず地域特性を知ることが大事で、そのためには地域の「カルテ」のようなものを作成することです。人間ドックのカルテのようなものを作成して地域の再生戦略を考える。それから、キーパーソンが存在が大事です。社会企業家を育てて、個性的なアイデアを持ち寄って実行に移すことができるということが大事なのではないでしょうか。したがって、ソーシャル・キャピタルを育成できるように住民間、あ

るいは行政や企業との信頼関係を育て、あるいはネットワークや人脈を広げるような努力を日ごろからするということが重要なのではないかと思います。非常に時間管理が厳しいのであまり脱線もできませんでしたが、とりあえずわたしの話はこれで終わらせていただきます。どうもご清聴ありがとうございました。（資料26～30）

（やまうち・なおと 大阪大学教授）

まちづくりには何が必要か

- 都市規模、人口集積 ⇒ 不可欠ではない
- 「コンパクトシティ」、「中山間地」でも工夫次第
- キーパーソン、仕掛け人、社会起業家 ⇒ 絶対必要
- ユニークなアイデア、着想 ⇒ とても大事
- 住民間の信頼 ⇒ とても重要
- 資金 ⇒ あるに越したことはない

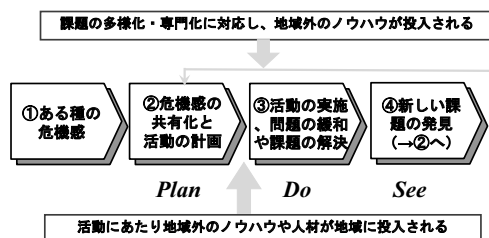
資料23

地域の問題解決力とは

- 危機、問題の発生に気づき、正しく認識する
- コミュニティで問題を共有する
- 解決のリーダーシップを発揮する
- 住民、企業、行政など異なる主体が協力する
- 解決に向けたアイデアを出す
- アイデアを具体化し、実行に移す
- 施策を評価し、見直す

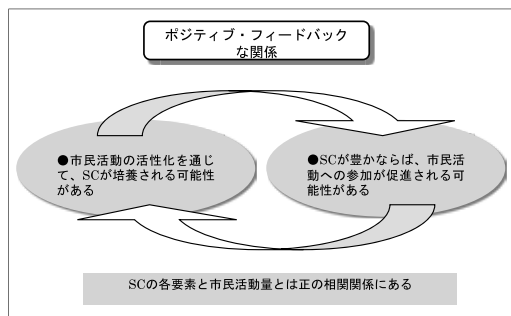
資料24

コミュニティの課題解決のプロセス



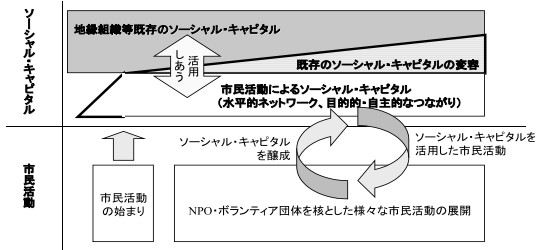
資料25

SCとNPO・市民活動の相互関係



資料26

SCとNPO・市民活動の相互メカニズム



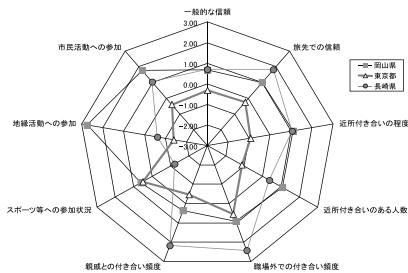
資料27

SC指標で地域特性を知る

- 信頼指数: ①一般的な信頼 ②旅先での信頼
- つきあい指数: ③近所づきあいの程度
④近所づきあいのある人の数 ⑤友人知人との学校・職場外でのつきあいの頻度
⑥親戚とのつきあいの頻度 ⑦スポーツ・趣味・娯楽活動への参加
- 社会参加指数: ⑧地縁的な活動への参加状況
⑨ボランティア・NPO・市民活動への参加状況

資料28

地域特性の比較



資料29

地域再生の効果的実践のために

- 地域特性(強み、弱み)を知り、地域の「カルテ」を作成して、地域再生戦略を考える
- キーパーソン、社会起業家を育て、個性的なアイデアを持ち寄り、実行に移す
- 住民間、行政や企業との信頼を育み、ネットワーク、人脈を広げる

資料30